

平成17年4月14日

問い合わせ先

海上保安庁海洋情報部技術・国際課

地震調査官 渡辺 一樹

TEL 03-3541-3813(内線523)

福岡県西方沖地震の震源域海底の調査を開始

海上保安庁は、3月20日に発生した福岡県西方沖地震(マグニチュード7.0)の震源域周辺の海底の調査を4月22日より開始します。

今回の地震の震源域付近では、海上保安庁のこれまでの調査により、余震の発生している海域の北東5kmほどの場所に海底断層が見つかっていましたが、余震域直上では顕著な断層が見つかっていませんでした。今回の本震は、深さ約10kmで発生しておりますが、断層の変位が海底面まで及んでいるか、現時点では不明です。

今回の調査では、測量船「明洋」(総トン数550トン:本庁所属)を用いて、余震域を中心とした海底での地下構造の調査を行います。

この調査により、今回の地震で動いた地下断層の変位が海底面まで達しているかどうか明らかとなり、地震の性質がより詳しく解明されると期待されます。

また、併せて詳細な海底地形調査についても測量船「はやしお」(総トン数30トン:第七管区海上保安本部所属)により実施しています。

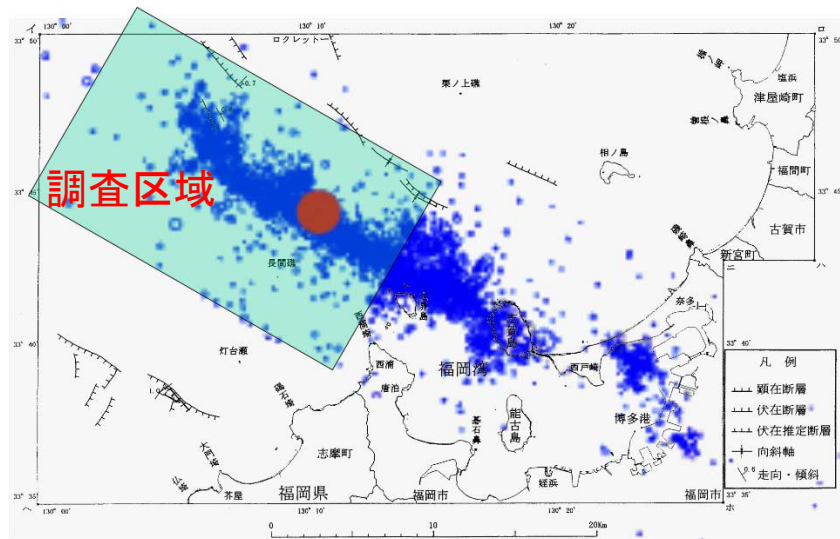
なお、測量船「明洋」は4月25日唐津港入港を予定しており、その際に取材が可能ですので、取材希望の社にありましては、4月22日正午までに、第七管区海上保安本部「広報・地域連携室(093-321-2931内線2117、2118)」あてご連絡をお願いします。取材日時の詳細については、調査状況及び気象・海象等により入港日時を変更する場合がありますので、判明次第ご連絡いたします。

測量船「明洋」による調査内容

サイドスキャンソナーによる海底地形

表層音波探査装置(チャープソナー、スパーカー・エアガン(注1))による地下構造

調査区域



余震分布は4月6日までの防災科研Hi-netの「本震発生からのS-T図(時空間分布図)」より

(注1)

地層探査機(スパーカー)

音波探査機的一种、高電圧荷を海中に曳航している電極で火花放電させると海水に沸騰、蒸発、泡の拡張、収縮がおり、音波を発生する。

この低音波(100Hz~2KHz)を海底に発射し、海底下の地層からの反射音波を受信して記録し、海底下の地層を断続的にとらえます。

地層探査機(エアガン)

曳航したエアガンに高圧空気を送り込み海水中で間欠的に開放します。高圧空気が急に膨張することにより、音量が大きく周波数の低い音波が発生します。5Hz~300Hzの音波により海底下数km程度までの調査を行うことができます。スパーカーと同じく船尾より曳航しているハイドロホンで受信します。

